

## 就労準備支援事業（任意事業）の実績（令和3年12月末時点）

### <事業の概要>

一般就労に従事する準備としての基礎能力の形成を目的として、生活リズムを整える、他者と適切なコミュニケーションを図ることができるようにするなどといった日常生活自立・社会生活自立に関する支援から、就労体験の利用の機会の提供等を行いつつ、一般就労に向けた技法や知識の習得等を促すといった就労自立に関する支援までを計画的かつ一貫して提供します。

### 1 支援実績

【図表1】就労準備支援事業利用者に対する支援状況（全6件）

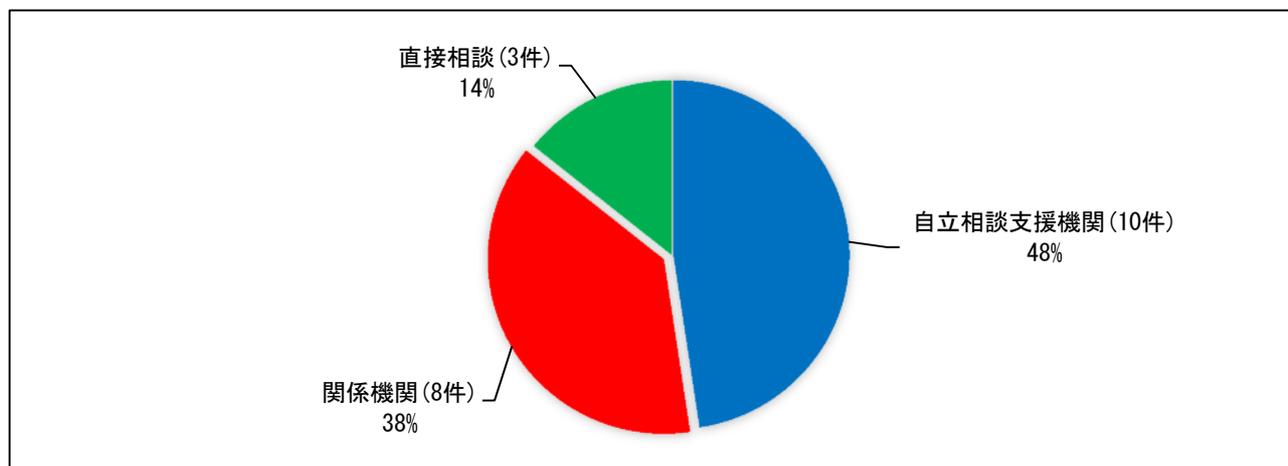
	対象者（年齢 性別）	支援期間	来所 面談	電話 メール	自宅 訪問	他機関 同行等	その他※
1	R2-J(30代 男性)	10 か月	4	20	0	0	4
2	R2-C(30代女性)	12 か月	4	14	0	3	3
3	R3-B(40代女性)	3 か月	6	10	0	1	2
4	R3-N(30代女性)	2 か月	2	6	1	0	7
5	R3-F(10代女性)	2 か月	3	6	0	0	0
6	R3-Y(50代男性)	1 か月	2	4	0	0	0

※その他 寄ってカフェ、つどい場「くろまつ」に参加、他機関協働の作業、グループセッションに参加等含む。

【図表1-2】就労準備支援事業利用者終結状況（全3件）

	対象者（年齢 性別）	支援期間	来所 面談	電話 メール	自宅 訪問	他機関 同行等	その他※	備考
1	R1-M(20代 男性)	24 か月	25	90	0	4	7	他県に転居のため
2	R2-N(40代男性)	14 か月	8	40	0	7	0	他市に転居のため
3	R2-M(40代女性)	12 か月	5	50	0	3	0	就職後定着しているため

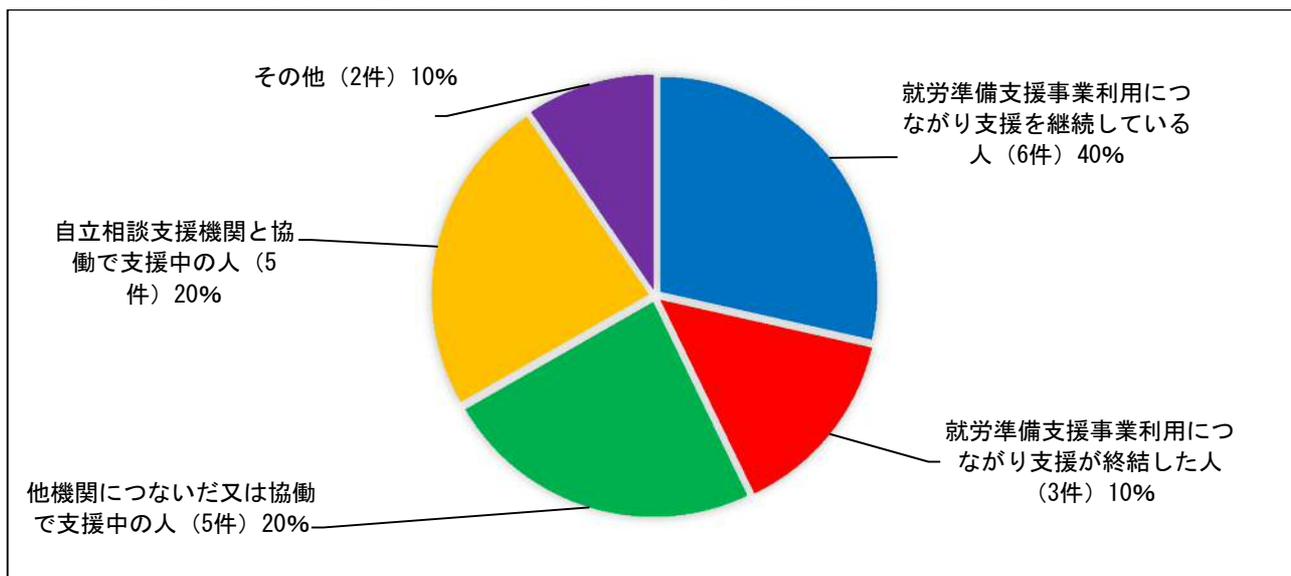
【図表2】就労準備支援事業の窓口につながった経路（全21件）



経路の内訳は、自立相談支援機関からが半数を占めますが、若者相談センターアサガオ等の関係機関からの紹介や、学校訪問を行った高等学校、寄ってカフェ開催時の直接相談により本事業窓口につながったケースもありました。

また、就労準備支援事業利用者は年々増加傾向にあります。要因としては、自立相談支援機関と密に連携し、早期から面談に同席したことや、関係機関への事業説明や学校訪問により本事業への理解が得られた結果と考えられます。

【図表 3】 就労準備支援事業担当者が関わったケースの分類（全 21 件）



今年度も、近隣の高等学校、大学で本事業の周知を行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、困窮状態が顕在化した中で、早期から本事業の担当者が自立相談支援事業に関わるケースを増やすことで、就労支援のニーズに向けた対応や、本事業の利用に至るケースの増加につながりました。

継続しての課題になりますが、就労準備支援事業を利用している方の生活基盤をどのように保っていくかという課題も、自立相談支援機関と連携して支援方法を検討しながらすすめていく必要があると感じています。

【図表 4】 就労準備支援事業未利用者への支援状況（全 12 件）

	対象者 (年齢 性別)	来所 面談	電話 メール	自宅 訪問	他機関 同行等	その他	備考
1	H29-C(30代 男性)	0	2	0	0	0	自立相談支援事業と協働
2	R2-K(30代 男性)	2	15	4	0	0	障がい者相談支援事業と協働した後 本事業で継続支援
3	R3-S(30代 女性)	3	5	0	0	0	自立相談支援事業と協働
4	R3-D(20代 女性)	3	10	0	0	14	阪神南障害者就業・生活支援センター 障がい者相談支援事業と協働
5	R3-T(30代 男性)	1	0	0	0	0	障がい者相談支援事業 面談同席
6	R3-k(40代 男性)	1	3	0	0	2	自立相談支援事業と協働

	対象者 (年齢 性別)	来所 面談	電話 メール	自宅 訪問	他機関 同行等	その他	備考
7	R3-H(50代男性)	0	0	5	0	0	障がい者相談支援事業と協働
8	R3-G(30代男性)	0	0	0	0	3	寄ってカフェ来店
9	R3-A(50代男性)	0	0	0	0	2	寄ってカフェ来店
10	R3-O(20代男性)	1	0	0	1	0	自立相談支援事業と協働
11	R3-M(20代男性)	1	2	0	0	3	阪神南障害者就業・生活支援センターと協働
12	R3-L(20代男性)	0	2	2	0	1	自立相談支援事業と協働

寄ってカフェの開催や自立相談支援機関が実施する面談への同席、支援調整会議等への出席、若者相談センターアサガオとの連携により、多様な経路で本事業へつながっています。

本事業未利用の状態でも自立相談支援事業と継続して本事業担当者が面談に同席していたケースで、対象者の状況の変化に伴い、本事業利用に至るケースもありました。

## 2 社会資源の開拓（芦屋社会福祉協議会・阪神南障害者就業・生活支援センターとの連携による）

【図表5】ボランティア・見学・実習 可能事業所

	事業所名	所在地	内容
1	株式会社ブックサプライ	尼崎市	中古本・CD・DVDのピッキング等
2	あしや温泉	芦屋市	館内清掃
3	社会福祉法人 三田谷治療教育院	芦屋市	草花の手入れ・水やり 野菜作り
4	就労支援カフェ CACHE-CACHE(カシュカシュ)	芦屋市	喫茶作業
5	就労移行支援事業 ワークホームつつじ	芦屋市	作業補助
6	NPO法人 日本レスキュー協会	伊丹市	犬の世話 事務作業等
7	ウェルネットさんだ	三田市	農業体験
8	婦木農園	丹波市	農業体験・酪農体験（合宿も可）
9	山村ロジスティクス	西宮市	食品等のピッキング
10	エルホーム芦屋	芦屋市	グループ活動体験（花壇のお世話、庭掃除）
11	株式会社プランツ・キューブ/ワーク・キューブ	芦屋市	喫茶作業・軽作業・パソコン操作
12	株式会社ポップ・アイディー	芦屋市	パソコン作業
⑬	芦屋市シルバー人材センター	芦屋市	事務作業
⑭	社会福祉法人 山の子会 芦屋アフタースクール	芦屋市	指導員補助
⑮	芦屋市保健福祉センター	芦屋市	消毒作業、花の水やり、植え替え
⑯	芦屋市立図書館	芦屋市	書架整理、除籍資料梱包、季節催事の飾りつけ作成や展示、PC入力等、園芸、清掃

\*No13, 14, 15, 16は、今年度新規開拓した事業所

今年度、4件の就労体験、ボランティア先を開拓しました。

保健福祉センターの花の植え替え作業に参加し、花や土に触れながら、他者と関わる機会になりました。今後も本事業利用者と関係性を築きながら、本人のニーズに合わせて実施していきます。

### 3 対象者の状態像に対応できる支援メニューの多様化について

【図表 6】パソコン・タブレットの使い方

	項目	内容
1	パソコン・タブレットの基本操作	機器の立ち上げ, 操作方法の説明・実践
2	ソフト基礎学習	Wordの文書作成, 案内の作成, 表作成, Excelの表作成
3	求人検索	インターネットによる仕事探しの方法について説明・実践
4	オンラインツールの活用	オンライン面談やオンライン面接に向けての練習でZOOMを活用
5	職業について知る	職業情報提供サイト日本版O-NETを閲覧しながら様々な職業について学ぶ。

【図表 7】グループセッション プログラム（ピアサポート活動）

開催月	テーマ	詳細
4	「お仕事できれいにする」ってどうすることかな？	清掃というお仕事について実技を通して知る。
6	「面接を受けてみよう」	オンライン（ZOOM）にて面接練習の実施
7	「仕上げの確認ってどういうことかな？」	4月で学んだことを実技を通して振り返る。
9	「働いている現場」ってどんな感じかな？	働く現場を動画を通して見学する。
10	「面接で気をつけること①」	面接の基本マナーについて学ぶ。
11	「面接で気をつけること②」	面接について講義と実演を通して学ぶ。
12	「面接で気をつけること③」	これまでの面接の振り返り, 実演

\* 新型コロナウイルス感染症拡大の防止のため令和3年5月、8月は中止

【図表 8】就労サロン（2か月に1回）

目的	参加者が職場での体験や悩みごとなどを自由に発言し、参加者同士で体験を共有し、共に考えながら互いに支え合い、励まし合う場とする。また、参加者同士の交流によって、働く意欲が高まり、より充実した職業生活を送れるよう、本会を一步踏み出す飛躍の場としたい。
対象者	阪神南障害者就業・生活支援センター利用者、就労準備支援事業利用者
その他	医師・カウンセラーを外部講師に招き、質問会を実施。

\* 令和3年6月、8月はZOOMを活用してオンラインで実施

#### 4 周知・啓発

自立相談支援機関や本事業で支援している若年層、中高年層でひきこもりの状態にある人は、学齢期から何らかの生きづらさを抱えていた人が多い傾向にあります。そうした生きづらさを抱えている人に、できる限り早い段階から本事業の担当者が関わることで、社会への関わり方等の支援ができるため、社会参加へ効果的であると考えていますので、周知・啓発の重要性を感じています。

昨年度と同様に、就職前の高校・大学の該当者に対し、在学中から自立相談支援事業や本事業を知ってもらい、卒業後(中退含む)の支援につながるができるよう、学校に本事業を認知してもらうことを目的に、高校及び大学(市内2校、市外1校)を訪問し、進路担当者等へ事業の案内を行いました。今後も継続して取り組んでいきます。

また、当法人のホームページに本事業のページを作成し、事業の詳細を掲載しています。今後も本事業の認知度や理解度の向上のため、様々な周知・啓発の方法を考えていきます。

#### 5 成果と課題

##### (1) 成果

###### ア 地域での居場所・役割について

継続して市内の地域活動支援センターの協力を得て「寄ってカフェ」を毎月開催し、延べ20名の利用がありました。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和3年5月、6月、8月、9月はオンラインで実施)

地域活動支援センターが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため使用できない場合もあり、その際は保健福祉センターの高齢者交流室で開催しました。

今年度から、週に1回(月曜日)定期的に通うことができるつどい場「くろまつ」を開設し、計25回開催しました(オンライン開催含む)。また、くろまつにおいて、「園芸」、「編み物教室」、「ビジネスマナー講座」、「体操教室」など参加者に合わせながらオーダーメイドのプログラムを計5回(内オンライン含む)実施しました。

###### イ 周知・啓発について

昨年度に引き続き、自立相談支援事業担当者と近隣の高校や大学へ訪問し、進路担当者等に本事業の対象者像や支援内容の説明を行い、本事業を認知してもらうことに努めました。

###### ウ 就労支援について

本事業利用者の6名のうち、就労している方には定期的な面談(オンライン面談含む)、電話にて職場の悩みや仕事への不安に対して助言を行い、就労定着支援を行いました。

就労していない方については、定期的な面談(オンライン面談含む)に加えて本人の意思や希望を尊重しながら、ハローワークへの同行支援、履歴書の作成、面接練習を実施しました。

就労に向けて準備段階にある本事業利用者に向けては、社会参加の機会として、保健福祉センターでの花の植え替え作業や、芦屋市社会福祉協議会と一緒に赤い羽根募金の準備作業を行いました。

#### エ 相談支援体制の機能強化について

自立相談支援機関、他機関との連携強化を図り、対象者の把握に努めた結果、本事業の利用者が前年度に比べ増加しました。現段階では、就労準備支援事業の利用が難しい方に対しても、他機関と連携しながら、将来的に本事業の利用につながるよう支援を行っています。

今後も、関係機関への周知・啓発を行い、相談者にとって有益になるよう、支援のネットワークを広げていけるよう、体制づくりに努めていきます。

#### オ コロナ禍での支援について

可能な範囲で電話やメールでの支援を行い、対面で面談を希望する場合は、感染症対策を行った上で実施しました。インターネットの環境がある対象者とは、一緒に操作方法を学びながらZOOMを活用してオンラインでの面談を実施しています。

寄ってカフェ、くろまつ、就労サロンに関しても、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、オンラインを活用しながら柔軟に対応しています。

### (2) 課題

#### ア 地域での居場所・役割について

寄ってカフェを開催している中で、窓口には足を運びにくいカフェには相談に来られるという方がいる一方で、ひきこもりの当事者やその家族が来られるケースは少ない状況にあります。

また、上記の課題とあわせて、コロナ禍でのカフェの開催について、オンラインでの実施をしていますが、電子機器が苦手な方やインターネット環境がない方にも参加していただけるような工夫が必要であると感じています。

今年度から実施しているつどい場「くろまつ」についても、社会参加の機会として活用してもらえるように、プログラムの充実や周知を行っていききたいと思います。

#### イ 周知・啓発について

就職前の学生へアプローチするため、高校・大学における本事業の対象者数の把握や、対象者及び学校側のニーズを把握するため、近隣の高校・大学へ定期的な訪問を行い、情報交換や連携を継続して行っていきたく考えています。

また、対象者へ事業説明等をする際に、理解を得られやすいよう、本事業の取り組みの内容について、丁寧な説明やニーズの聞き取りを引き続き行っていききたいと思います。

#### ウ 就労支援について

既存の就労支援プログラム，体験実習等の活用実績が少ないため，定期的に対象者の希望やニーズを調査し，その方に応じた就労支援プログラムの活用，体験実習の実施を行っていきたいと考えています。

#### エ 相談支援体制の機能強化について

自立相談支援機関の支援対象者に対して，初期段階から面談に入ることや，若者相談センターアサガオ，高等学校との連携で，6件が本事業の利用につながりました。本事業の利用に至っていない支援対象者に対しては，本事業を利用することの意義や目的を適切に継続して伝え，本事業利用者の増加に努めたいと考えています。

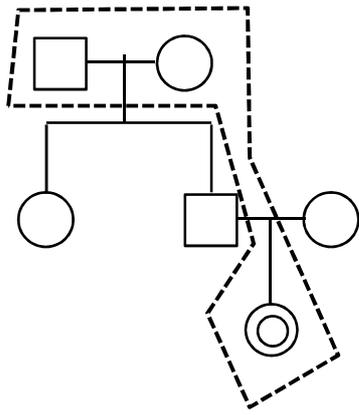
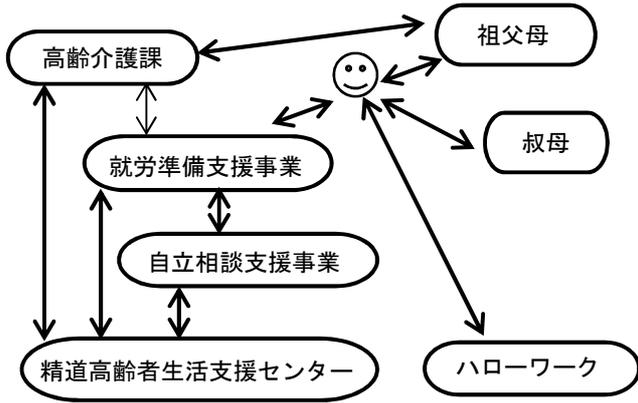
また，自立相談支援事業の就労支援と就労準備支援事業の就労支援で，制度の趣旨等役割が異なる部分がありますが，自立相談支援機関と協議を重ねながら，就労支援全般を担っていくことができると考えています。

#### オ コロナ禍での支援について

対面での支援が難しい状況における支援方法として，電話やメールに加えて，オンラインでの面談，面接練習，就労サロンなど，個々に合わせた方法で今後も支援を実施していきたいと考えています。

事例『就労準備支援事業利用事例（継続支援）』

（※事例内容は本人が特定されないよう、修正しています。）

●事例の概要	
<p>本人…30代女性。高校卒業後無職であったが、ホームセンターでの週3日の就労が継続している。両親とは別居。父親は精神疾患があり、本人養育時に虐待があったため、幼少期より祖父母宅に引き取られ養育される。</p>	
●ジェノグラム	●エコマップ
	
●インタビュー・アセスメント時の本人の課題	
<p>【生活歴等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人幼少期に父より虐待を受けたため、祖父母宅に引き取られ養育される。</li> <li>・中学時代より不登校、人間関係を構築する機会や社会に触れることが少なかった。</li> <li>・情報は主にインターネットから得ており、本人の経験談や人から聞いた話はほとんど出てこない。</li> <li>・高校在学中から進路に迷い現在も将来の方向性を決めることができない。</li> <li>・祖母の介護のため、近くに住む叔母が祖父母宅へ出入りしており、本人が就労していないこと等の生活状況を注意されたことで、叔母ともみ合いになり、制止しようとした祖父を突き飛ばして虐待通報となった。</li> </ul>	
●支援の方向性	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続支援となる。引き続き就労に向けて基礎となる日常生活リズムの確立と体力づくりを行う。</li> <li>・定期的な面談に加え、グループ活動に参加するなど、人と関わる機会をもつ。</li> <li>・就労のイメージがもてるように企業研究や企業見学、面接練習、履歴書作成など就職に向けて行動する。</li> <li>・自信や自己肯定感を高める関わりを心がける。</li> </ul>	
●支援経過	●支援プラン
<p>R1.9～R2.9</p> <p>定期面談を中心に関わる。「働きたい」という意欲があるも、不安や自分に対して自信を持たず、一歩が踏み出せない様子。</p> <p>一度働くも人間関係に悩み、自身の体力以上に働いてしまい、1か月ほどで退職に至る。</p> <p>人と関わることに慣れていき、自分のペースで働ける仕事をみつけていきたいと希望される。</p>	<p>定期面談 ハローワーク同行 履歴書作成</p>

●支援経過	●支援プラン
R2.10 清掃活動のボランティアに支援員と参加する。 他の参加者と話す機会もあり、その場では問題なく受け答えされていたが、久しぶりに他者と関わったことで疲れた様子。	ボランティアに参加し、他者と関わる機会をもつ。
R2.11 協力事業所の福祉施設を見学する。 事業所での仕事内容についての説明を受け、本人も「仕事のイメージが少し沸いた気がします。」と話される。	事業所を見学し、働くイメージをもつ。
R2.12 本人の中で就労に対して意欲が高まってきた様子で、面談中に、以前から見ていた求人情報から、気になっている求人先に応募することができた。 面接試験に不安があるため、支援員と面接練習を実施する。 その後、面接を受け、採用となったが、前職の反省を活かし、無理のない範囲の勤務時間から働くこととする。	定期面談 応募書類の準備（履歴書） 面接練習
R3.3 就職して3ヶ月が経ち、人間関係で嫌なことがあった様子。 「辞めたい」と思うようになってきたと話される。 仕事の場面ごとに支援員と振り返りを行い、情報を整理していく。 「マイナスなことでも人に話すと楽になった。」と気持ちの切り替えができた様子。	定期面談（オンライン） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 定着支援
R3.4 つどい場「くろまつ」に参加し、ビジネスマナーについて学ぶ。 一緒に参加している方と少し話す場面も見られた。	定期面談 定着支援 グループ活動に参加 プログラム参加
R3.5 面談の中で、「運転免許を取ってみようと思うが、行動に起こせない。」「他のことや仕事でも、行動に移せない自分がいてこれまでの人生もその繰り返しで、そんな自分が嫌になる。」と話される。 話を聞きながら、仕事を続けられている事、プログラムへの参加など、以前に比べいろいろと行動できている事実があることをお伝えする。	定期面談（オンライン） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 定着支援 電話連絡
R3.6 寄ってカフェ（オンライン）に参加する。 他の参加者で運転免許を取得されている方がいたので、運転免許についての話で盛り上がった。 後日、「教習所はどこにしたら良いか。費用はどれくらいかかるか。」などの質問があった。 支援員と一緒に調べながら進めていくとイメージが沸いたようで、教習所に申し込みをする。	寄ってカフェ（オンライン）に参加。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 運転免許取得を目指す。
R3.7 面談で、「教習所を続けていく自信がない。」「仕事でイライラが溜まっている。」とマイナスな発言が目立つ。 教習所を続けていく自信が持てない理由を聞きながら、イライラのコントロールの方法について一緒に学んでいく提案をする。	定期面談 定着支援 電話連絡

●支援経過	●支援プラン
<p>R3.8 つどい場「くろまつ」（オンライン）でアンガーマネジメントについて勉強する。「なかなか難しい。」という感想。 寄ってカフェ（オンライン）に参加され、他の参加者とゲームの話をされる。</p>	<p>定期面談（オンライン） グループ活動に参加（オンライン） 寄ってカフェに参加（オンライン） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため 定着支援</p>
<p>R3.9 体操プログラムに参加。 「体を動かして少しすっきりした」との感想があった。 赤い羽根募金のポスターを丸める作業に参加する。 手先が器用で丁寧に丸められている。 運転免許が取得できたことを報告してくれる。</p>	<p>体操プログラムに参加 グループ活動に参加 作業に参加</p>
<p>R3.10 祖父母の認知症状が進み、現在住んでいる家を出なければならなくなったと報告を受ける。 「これからというときにいつも家族に振り回される。」と落ち込んでいる様子。 一人暮らしをするか、他県に住む母宅に行くか悩んでいるよう。</p>	<p>定期面談 電話連絡</p>
<p>R3.11 金銭的なリスクを考えると一人暮らしは厳しいとの結論に至り、他県に住む母宅へ引っ越すこととなり、本事業の支援が終結となる。 お別れの時に、相談員に感謝の言葉を伝えてくれた。</p>	<p>定期面談 電話連絡</p>
●支援の効果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・数年に渡る継続的な支援であり、本人が悩んだり、つまづいた時に話を聞くことができる身近な存在になれるよう関係性の構築に努めた。</li> <li>・見られた変化としては、他者と関わる機会が増えたように思う。当初は、社会経験の少なさから、人との関わりの中で疲れを感じる場面が多かったが、次第に自分の想いや興味のあることについて、積極的に他者と話す場面も見られた。</li> <li>・自身で考えて選択しながら主体性をもって行動することができるようになった。仕事に対しても、転居に至るまでは継続することができており、キャリアに対するステップアップや運転免許という資格取得にもつながった。</li> </ul>	
●支援を通じた地域課題等	
<p>・家族の都合により他市に転居となるケースについて、本人としては引き続き本市で自立に向けて取り組んでいきたいという意思があったとしても、1人で生活できるほどの生活スキルや金銭的余裕がない場合、転居せざるを得なくなる。制度として、一時的な生活費等の支援や福祉サービス非対象者でもグループホームのような制度があれば、転居せずに継続支援ができたのではないかと感じた。</p>	